

第3学年1組 総合的な学習の時間 学習指導案

日 時 令和3年11月17日(水) 5校時
場 所 講堂 児童数 31名
指導者 教諭 川浪 博文

1 単元名 西郷地区の偉人を未来につないでいこう

2 単元について

(1) 単元観(教材について)

本単元は、西郷地区の偉人を題材とし、偉人の生き様や功績を知るとともに、長く語り継いでいくために尽力しておられる方々の思いにも触れ、児童自らが後世に伝えていくために何ができるかを考えて実践していくものである。地区の偉人の中でも特に「吉田絃二郎」「大倉邦彦」について取り上げていく。「吉田絃二郎」は、多くの児童文学作品を執筆してきた作家であり、児童も1年生の時から絵本を読み、読書感想画製作などでも触れてきている。「大倉邦彦」は西郷小に講堂や学習田を寄付し、郷里に大きな貢献をした実業家・教育者で、功績を称える石碑が校内に残っている。神埼情報館には二人の映像や作品、著作物があり、喜多館長をはじめ地域の顕彰会の方々などによって語り継がれている。二人の偉人は児童にとって親しみを感じている対象であり、地域の人や施設とかかわりながら児童が自ら課題を設定し、学んだことを伝えていくという学習活動に適した教材であるといえる。

本単元では「吉田絃二郎」「大倉邦彦」について、喜多館長の講話や神埼情報館見学などの体験活動、資料による調べ活動を通して、児童一人ひとりが設定した課題について探究的に取り組んでいく。その中で、今まで触れていなかった偉人の功績や生き様などを知り、収集した情報から何を、誰に伝えたいかを考えていく。このことは、「人・もの・こと」とのかかわりを通して、自分の住む地域に誇りをもつ児童の資質・能力の育成につながると考える。

また、今回の学習活動を通して、総合的な学習の時間で探究的に課題を解決していくことのよさや、自分が住む地域について学習することのよさ等を実感させ、第4学年での「尾崎人形」についての学習につないでいきたい。

(2) 児童観(児童の実態)

本学級の児童は、1学期の「西郷のまちのことをもっとよく知ろう」の単元で、校区内の名所や施設から伝えたい場所を決定して情報を集め、一人ひとりが西郷地区の紹介マップにまとめて、まわりに発信していく活動を行った。その中で、課題を見つけたり情報を収集、整理したりする際に級友と意見交流し、調べたことを写真や文章でまとめる経験をしてきた。2年時の生活科と3年時の総合的な学習の時間の単元ごとに実施しているアンケートでは、「自分の考えを話したり考えたことをまとめて書いたりすることができたか」の質問に対し、肯定的な回答を示す割合が85%から100%に増加している。また、「西郷のまちは好きですか」という質問に対しては、ほぼ全員が肯定的な回答をしている。好きな理由として2年時は「田畑が多い」「周りの人が優しい」などが挙げられたが、3年1学期終了時は「自然豊か」「人が優しい」に加え、「クリーク公園」「お店がある」「電車が通る」など、地域の場所を挙げている児童も多く、1学期の学習が自分たちの地域のよさを感じる一因になっていると思われる。

その一方、「自分から進んで課題を見つけることができたか」「めあてや課題を解決するために計画を立てて取り組むことができたか」の項目に対しては、肯定的な回答が7割弱と低い傾向にある。

1学期の様子を見ていると、学習の計画を意識しながら見通しをもって活動に取り組むことや、課題解決の進捗状況を省みることが難しい児童の姿も見受けられた。このことから、自分自身の学びを客観的に見つめ、見通しをもって活動するまでには至っていない状況であると言える。

また、全校や地域の方の前でのステージ発表やパンフレット、プレゼンなどの作成は、児童にとって学級で協力して行う活動の中でも長い時間を使うものである。その際、様々な役割が児童一人一人に設けられる。このような学習活動を通して、他者との関わりから作業を工夫したり、協力したりしていくことが考えられる。これによって本校の目指す3Cである、「交流を通し、他者の意見の価値に気付き、それを受け止めている。」[Communication]という力も育んでいきたい。

(3) 指導観（指導について）

本単元では4段階の学習過程を設定している。

第1次では、神埼情報館館長から神埼の偉人についての講話を聞き、西郷地区の偉人である「吉田絃二郎」「大倉邦彦」について知ることからスタートする。その講話の中で、語り継いでいかれている方々の思いに触れ、後世に伝えていくために自分たちができることを実践していこうとする意欲を喚起する。

第2次では、「偉人を未来につないでいこう」というテーマを提示し、自分ができることを考えさせる。神埼情報館見学や資料による調べ学習で偉人についての情報を収集すると同時に、家族や学校職員、市役所の方などを対象に二人の偉人についての知名度調査を行う。知名度調査の結果を基に、どんな内容を誰に伝えたいのかを考え、一人ひとりが「わたしの課題」を設定していく。その際、きてみんしゃい祭りや情報館での発表会が発表の場であることを伝え、見通しをもって進めることができるよう学習計画を立てていく。

第3次では、整理した情報から自分が伝えたい内容や方法ごとにグルーピングし、パンフレットやクイズ、大きな自画像などの方法でまとめていく。活動の中間発表を11月に学校で開催される「きてみんしゃい祭り」で行い、さらに多くの人に伝える機会として情報館での発表会を設定する。きてみんしゃい祭りでは、発表内容のよかった点や改善点を参観者に付箋に記入してもらい、自分たちの取り組みの他者評価を行う。付箋の記述内容を取組に生かし、12月に行う発表会へとつなげていく。児童がまとめたものを、市役所の方や顕彰会の方に聞いてもらったり展示してもらったりするなど、周りの人に働きかける経験をすることで、社会に参画しようとする態度も養っていききたい。

第4次は、振り返りの段階である。自分の活動を振り返るとともに、2年生にも取り組んできたことを紹介する時間を設け、この学習を引き継いでほしいという思いをつないでいきたい。

本時は第3次で、全校児童や保護者へ学習内容の中間発表をするきてみんしゃい祭りで、参観者に書いてもらった改善点やアドバイスに関する付箋を分類・整理していく。その後、整理した付箋の内容についてグループで話し合い、解決するためのアイデアを考えていく時間となる。他者からの評価コメントの中には、自分たちとは違う視点で書かれたものがあることに気づき、今後の取り組みが深まっていくきっかけとしたい。

3 単元の目標と評価規準、及びSDGs・3Cとの関連

(1) 単元の目標

西郷地区の偉人である「吉田絃二郎」「大倉邦彦」についての調べ活動や発表を通して、二人の功績やその魅力、語り継ぐ人々の思いなどについて知り、自分たちも周りの人に広く伝えていこうとする態度を育てる。

(2) 単元の評価規準、及びSDGs・3Cとの関連

	単元の評価規準	SDGsとの関連	3Cとの関連
知識・技能	①地区の偉人の生き様や功績、語り継いでいる方々の思いを理解している。 ②情報の分類・関連付けを、探究の過程に応じた思考ツールを用いて実施している。		1[Communication] 交流を通し、他者の意見の価値に気づき、それを受け止めている。
思考・判断・表現	①自分の思いを踏まえて課題を決定し、見通しをもって課題解決のための計画を立てている。 ②偉人について調べたことを、全校児童や地域に向けて伝えるように分かりやすく表現している。		2[Care] 身の回りの小さな変化に気づき、すべきことを考え、自分から行動に移している。

<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>①繰り返し地域にかかわることで関心を深め、地域とのつながりを意識して生活しようとする。 ②偉人について調べたことを発表する活動を通して、その魅力を改めて感じ取り、進んでそのよさを伝えようとする。</p>		<p>3[Continuity] 自分の課題解決のために、試行錯誤を繰り返しながら、最後までやり遂げることができる。</p>
----------------------	--	--	--

4 単元指導計画（全 32 時間）

小単元名・主な児童の反応	ねらい（○教師の手立て）	知	思	態	3C	評価方法
<p>1 西郷地区の偉人について知ろう（6）</p> <p>情報の収集</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; height: 40px;"></div>	<p>○1学期単元「西郷の町をもっとよく知ろう」を振り返り、2学期は「西郷の町」の人（偉人）について学習していくことを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <p>○児童が意欲的に関わるができるように、神埼情報館の喜多館長の話を聞く機会を設ける。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <p>○講話後、偉人の功績を後世に伝えていこうとしている方々の思いを考えさせることで、今後の指標とする。</p>	①			1 <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> ・発言内容 ・ワークシート
<p>2 偉人を未来につないでいくために、自分たちができることを考えよう（8）</p> <p>情報の収集 整理・分析</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <p>課題の設定 整理・分析</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px;"></div>	<div style="border: 1px solid black; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <p>○神埼情報館に行き、再度喜多館長から話を聞いたり、展示物を見学したりして、情報収集の意欲を高める。</p> <p>○偉人の知名度調査を行い、その結果から、自分たちが周りに伝えていくという意欲をもてるようにする。</p> <p>○神埼情報館喜多館長や神埼市役所の方において、伝える場を設定してもらうよう交渉し、発表する意欲を高めていく。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <p>○二人の偉人について、どのような内容をどのような方法でまとめていくか具体的に考えることができるようにする。</p> <p>○課題解決に向けて、必要な物の製作、関係機関への連絡などの計画を立て、実行できるよう促す。</p>	②		①	2 <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> ・行動 ・振り返り ・ワークシート

<p>3 偉人を未来につないでいくために、自分たちができることを実行しよう (15)</p>	<p>○課題が似ている児童でグルーピングを行う。</p> <p>○児童が進捗状況を確認し、次時に行うことが明確になるよう、毎時間振り返りの時間を設定する。</p> <p>○一人一人に役割分担をし、児童の自主的な活動を促す。</p>	①			1 <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> ・発言 ・行動 ・振り返り
<p>整理・分析 まとめ・表現</p>	<p>○グループごとに取り組んでいる内容の途中経過の報告と、今後の計画を知らせていく発表の場とする。</p>	②		3 <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> ・発言 ・振り返り ・行動 	
<p>整理・分析</p>	<p>○きてみんしゃい祭りのリハーサルを行い、お互いに発表する場とし、自分たちのものと他グループの表現方法などの違いを比較することができるようにする。</p>	②	①	2 <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> ・発言 ・振り返り ・行動 	
<p>まとめ・表現</p>	<p>○きてみんしゃい祭りで、学習内容の中間発表をする。</p> <p>○きてみんしゃい祭りで発表を見てもらった人の感想や意見を付箋に記入してもらい、その結果を「情報館での発表会」にどのように反映していくか考えさせる。</p>	②	①	3 <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> ・発言 ・振り返り ・行動 	
<p>4 自分たちのこれまでの活動を振り返ろう (3)</p>	<p>○活動全体を振り返り、成果と課題についてまとめるとともに、身に付いた力を確認し合うことで、達成感や成就感をもたせる。</p> <p>○次年度へ活動がつながるように、成果と課題については2年生に知らせる場を設ける。</p>	②	①	1 <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> ・発言 ・振り返り ・行動 	

5 本時の指導 (22/32)

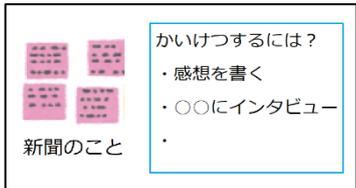
(1) 本時の目標

改善点やアドバイスが書かれた中間発表参観者からのコメントを付箋を活用して分類・整理し、今後の取組にどのように生かしていくかを考えることができる。 【思考・判断・表現】

(2) 本時に位置付けた評価規準

改善点やアドバイスが書かれた付箋を友達と交流しながら分類・整理し、これからの取組に生

(3) 展開 (□…評価 Bおおむね達成 ●達成不十分な児童への手立て)

過程	学習活動	教師の働きかけと評価
つかむ	1 グループごとに付箋を読み合う。 2 本時のめあてを確認する。	○きてみんしゃい祭りで回収した付箋（改善点やアドバイスが書かれたもの）を、グループごとに配布する。 ○前時を想起させ、児童の言葉を引き出しながら、本時のめあてと学習活動を確認できるようにする。
探る	3 付箋を内容ごとに仲間分けする。  4 仲間分けした付箋の内容を解決するためのアイデアを話し合う。 (※ _____ : 解決するためのアイデア)	○偉人について集めた情報を、付箋を使って分類・整理した学習を想起させる。 ○同じ内容の付箋をまとめたり、見出しを付けたりするよう促し、分類して整理することができるようにする。 ○付箋の内容を解決していくことで、自分たちの取組が進化していくことを伝え、動機付けとする。 ○話し合いが滞っているグループには、分類した付箋から「解決できそうなもの」をまず選び、その解決策を考えていくよう助言する。 ○解決策が見いだせず困っているグループがあれば全体に発表させ、よいアイデアがないか全員で考えさせる。
	5 本時の学習をまとめる。 ・めあてに対する達成状況、進捗状況の確認をする。 ・振り返りをノートに書く。	 ○次の授業の方向性を定めるために、めあての達成状況や進捗状況を児童に尋ね、全体で共有できるようにする。 ○「振り返りの視点」を提示し、その視点に沿って振り返りをしている児童に発表させる。
まとめる		

6 本時の考察

本単元の導入では、児童の思考の幅を広げるために西郷地区の偉人についてイメージマップを用いた学習を行った。また、神埼情報館見学で集めた情報や児童の考えなどを整理する際には、KJ法を用いて付箋の仲間分けを行うなど、いくつかの思考ツールを活用しながら単元を進めてきた。他者の考えに触れたり、集めた多くの情報を整理したりすることで、児童は思考ツールを用いることにも慣れ、それらの良さに気付くことができていた。

本時では、2人の偉人について調べたことを発表した「きてみんしゃい祭り」で、参観者（保護者、教師、6年生児童）からアドバイスを記入してもらった付箋の仲間分けを行った。これまでの経験を生かし、児童それぞれの視点で付箋を分類していくことができていた。付箋の内容によっては分類しにくいものもあったが、グループで意見を交流しながら取り組み、「アドバイスをどうつないでいくか考えよう」のめあては達成することができた。

付箋のアドバイス内容には、児童がすぐに実践できるもの、実践したいけど実現が難しいものがあった。本時では、多くのアドバイスを分類し、その解決策を考えていくことに視点を置いたが、分類したアドバイスを、これから実践していくものと実践できないものにさらに仕分けしていくことも、「アドバイスをつなげていく」ためには必要だと感じた。

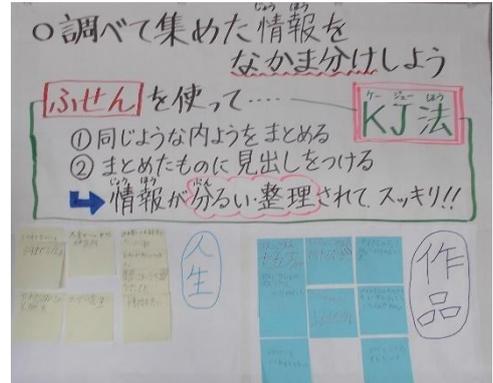
仲間分けした付箋の内容の解決策を考える活動の前に、全体で活動することの確認を行ったことが、児童にとってはよいモデリングとなっていた。しかし、全体に例示した内容が「早口だったから、もっとゆっくり話すといいよ」という行動面のものだけだった。実際に活動中、児童が困っていたのは思考が必要な内容の解決策が多かったもので、活動の途中に、思考の必要な解決策の例示をすれば、よりスムーズに話し合いが進んだのではないかと思う。しかし、参観された先生方にも質問しながら解決策を考えていた児童、グループも多く、他者と積極的に関わる姿に成長を感じることができた。

7 成果と課題

①成果

- 1学期単元「西郷のまちをもっとくわしく知ろう」では、総合的な学習の時間が初めての3年生児童に、4つの探究の過程を意識させることに重点を置いて取り組んだ。その経験が2学期単元にも生かされ、「わたしの課題」を具体的に考えたり、グループでまとめる活動では見通しをもって取り組むことができたりということにつながったと考えられる。
- 神埼情報館で発表会をさせてほしいと喜多館長に交渉したり、市長や市役所の方に発表会への招待状を書いたり、佐賀工業高校に肖像画展示のお願いの手紙を書いたりすることを通して社会とつながる

(Communication) ことを実感できた。偉人のことを広く伝えていこうと、地域の方だけでなく関係する多くの方々とつながり、積極的にコミュニケーションをとろうとする児童の姿も多く見



資料1 仲間分けの方法を掲示



資料4 神埼情報館見学に関する教室掲示

られた。

- 12月に行った児童アンケートでは、①「総合の時間に、友達と協力して活動するのは楽しいですか。」に全児童が肯定的な回答をしていることから、多くの時間を使ってグループでのまとめる活動を行った際に、級友に配慮、協力しながら意欲的に取り組むことができていたと考えられる。
- 児童アンケート⑩「総合の学習で、自分にどんな力が付いたと思いますか。」という質問には、「自分の考えと友達のを比べるところ」「グループで話し合う力」「振り返りを書く力」「情報を仲間分けする力(KJ法)」「タブレットを操作する力」などの回答があった。これらの記述は、児童が主体的に活動を進めてきた成果であると考えられる。
- 単元を通して、学習の足跡を可視化したものを教室内に掲示していたため、児童が少しずつ学習を進めてきているという意識をより強くもつことができた。学習してきたことを児童が振り返りながら、今後の見通しをもって学習を進めることができていた。
- 児童アンケート⑨「みなさんが住んでいる西郷の町は好きですか。」という質問に、95%以上の児童が肯定的に回答している。地域の偉人を題材にしたことで「偉人の生誕の地であること」や「地域のために活躍した人が西郷地区にいたことが嬉しい」と感じ、ふるさとを大切にしているという思いが高まっていると考える。また、喜多館長や吉田絃二郎顕彰会の方など、偉人を後世に残すために尽力されている方の思いにも触れることができた。これは、2学期単元で設定していた『相互性』の概念的知識獲得につながったと評価できる。

②課題

- 今年度は、単元に身に付けさせたい概念的知識を設定し、「単元ものがたり」を作成して学習活動を行った。全体が30時間ほどの長時間の単元で、児童が常に目的意識をもって学習を進めていくためには、その単元の最終的なゴールを明確にしていくことの重要性を感じた。「単元ものがたり」を作成、活用していく中で、加除修正や方向性を再確認する時間を設定する必要がある。
- 「わたしの課題」を解決するために「まとめる」活動は、児童の興味関心のあることについて、1学期単元は約10グループ、2学期単元は5グループに分かれて行った。グループごとに内容や発信したい対象などが異なり、担任一人では十分に支援したり関わったりすることが難しく感じることも多かった。全学級が単学級ではあるが、可能な限り教師間で連携、協力しながら学習活動が進められるような体制を作っていくことが今後必要である。

